

三河川整備計画意見書

平成19年2月20日

近年地球規模の温暖化現象が世界各地で報告される事が多くなってきております。海水面の上昇により赤道近くの島々が水没していく心配もされております。

この様な世界の異常気象の中、日本も本年は暖冬による降雪量が極端に少なく本州方面では例年の25%と報道される中、北海道の上川管内も少雪の状況であり、水不足が心配されます。この上川は稲作、畑作、酪農を中心とした農業を基幹産業の町であり、特に大変深刻な問題であります。

本道の稲作は、水管理技術が最も重要で、収量、良質米生産に大切な要素であります。

最近の報道等では、米に生産するのには3600tの水が必要であると言われております。これは1ヘクタール当り18000t、水位にして1800mm必要なのであります。稲作は田植から90日間必要で、特に7月初旬にかけて減数分裂期をむかると、冷害が50%の低め、水不足で補うため、15cm30cmの水位が必要で、最も重要な技術であります。水より豊富なタイワンと、ミネラル供給される率により健全な体を作り、良質米を生産できるのであります。

降雪量が少い事は、農業者ばかりではなく、一般市民にとっても深刻な問題であります。

生活水準が上がり、産業が活性化、文化水準が上がる事は、同時に水が増える必要になり、安定した水の確保が大切な事であると考へます。

一度火災が発生すると復旧に莫大の時間とお金がかかります。

人命財産の保全が最も優先されるべきであります。

自然環境も大切であり、自然の災害に備える事は日々の重宝である事から、最大の防衛策であると考えます。

士別市 北川利一